

茶道の在り方

豊田工業高等専門学校五年（愛知県）

本田 岳士

私は、高等専門学校一年生のときに部活に入り、そこから茶道に関わっていくようになりました。ここでは部活に所属する先輩方や、作法を教えてくださいと先生がいらっしやり、たくさんさんのことを学ぶことができました。その際、私がかつてに關心を持った点は、茶道というのは元々男性が主にやってきたものであるということです。私は、茶道は元々女性が多い印象があったことから、女性が主体で行っているものだと思っていました。このことから当時一年生だった私は、茶道というものは昔から現代にいたるまで、時代に則したように形を変えてその文化が受け継がれてきたのだと感じ、またこれから変わっていくとしたらどのように変わっていくのかと考えていました。

ここで、私が体験した去年、二〇二〇年の出来事について話をしたいと思います。私は、当時高専四年生でした。そして、その時の学校の文化祭で、茶道部の展示代表を務

めていました。例年の展示では、来校された方や学生に、お茶菓子を出し、実際にお茶碗でお茶を点てて飲んでもらうといったように、少しでも茶道の体験をしてもらうために、実際使われる茶碗を用いたり、ようじを使ったりして、出し物をしていました。しかし、新型コロナウイルスの流行により、例年とは異なり、特に食べるものを扱う出し物だったために、厳しい対策を行ったうえで展示を余儀なくされました。

そこで私たち茶道部は来場者の距離を離すことや、茶碗を念入りに洗って行うなど考えました。しかし結局は、お茶碗を焼き物ではなく使い捨ての容器で代用したり、お菓子は個包装されたものを、ようじの使いまわしをなくすため素手で食べてもらったりして、新型コロナウイルスの対策をとりつつの展示を行うことになりました。私はこの案を考えた当時、これではあまりに味気がなく、茶道とは呼べないのではないかと、茶道部の出し物として、本当にこれで良いのかと考えていました。

そこで私は、元々茶道は男性が行っていたものから女性が主になっていったというように、時代に則した茶道の在り方というものがあるという事を思い出しました。性別や、作法の形など、様々なところで変化していったとしても、それは時代に合わせた茶道というものの在り方なのだと考えるようになりました。だから私は、私たちの考えた案で

出される茶道体験というものも今の茶道の在り方なのだと
考え、文化祭当日では、気持ちよく展示に臨むことができ
ました。

私はこの経験を通して、改めて茶道というものの形が時
代に則して変わっていくのだという事を、身をもって感じ
ることができました。さらに、時代に則した、受け入れら
れる形での茶道というものは、誰かが試行錯誤して見つけ
ていかなければ失われてしまうかもしれない、という危う
さについても考えることができました。昔ながらの形を重
んじることも大切だとは思いますが、そればかりで社会か
ら受け入れられなくなったら元も子もないという事を肝に
銘じ、これからも茶道と付き合っていきたいと感じました。